

別海町郷土資料館だより

No.80・2006・3

冬の野鳥観察会「オジロワシ・オオワシを観察しよう」実施報告



2月19日（日）、約45名が参加して、「冬の野鳥観察会」を風蓮湖と別海漁港で実施しました。

行きの車中では、講師の渡辺昇さん（別海町郷土研究会・写真左）に、双眼鏡の扱い方、オオワシとオジロワシの生態や特徴、昨年風蓮湖も新規登録されたラムサール条約のことなどについてお話していただきました。

観察地点では、結氷した風蓮湖上で群れをなして休むオオワシ、すぐそばの木々に止まるオジロワシの勇壮な姿を見ることができました。（文責 戸田博史）

今回の観察会に参加してくださった中西別の神部久美子さんから寄せられた感想です。

「一人では中々見つける事が出来ない貴重な鳥たちを、説明と共に本物を観察できて感激させていただきました。ただ観察するのではなくて説明していただくと興味も何倍にもなります。これからはどんな自然に遭遇するか楽しみにもなりました。

まだまだ私たちの知らない別海がたくさんあることがよくわかりました。これからも御案内を楽しみにさせていただきます。」

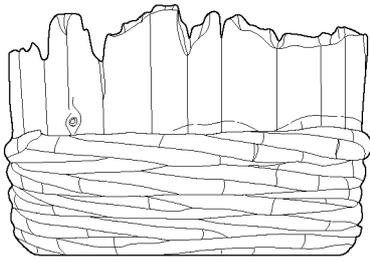
郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ
3月（■は休館日）

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

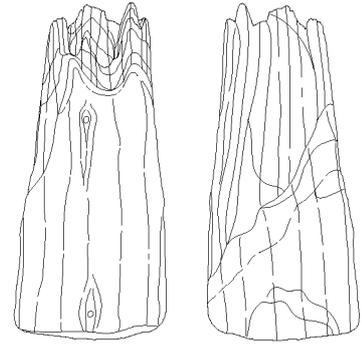
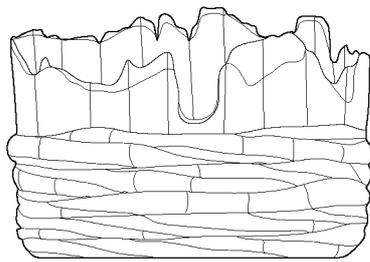
- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円
高校生以下は無料となります。

野付通行屋跡遺跡発掘調査から その11

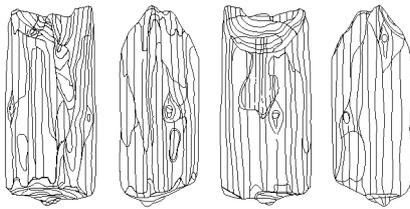
～西側調査区の建物跡2 柱穴～



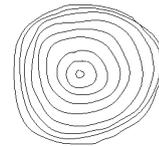
樽 (写真①出土)



柱 (写真①出土)



図の縮尺 : 1/16



柱 (写真②出土)



今月号は、西側調査区建物跡の柱の穴と出土した柱などについて紹介します。柱の穴は、考古学の用語では、柱穴（ちゅうけつ）と呼ばれ、聞いただけではピンとこないかもしれません。

「柱の穴がなぜわかるのか？」調査中の見学会でよくこの質問を受けました。掘られた穴に埋まった土は、周辺の土の層と色も硬さも違います。これらを良く観察しながら調査は進められていきます。この遺跡の場合は、砂嘴上にありほとんどが砂礫で上に火山灰が堆積しています。建物の柱を建てるために穴を掘り、建てた後に埋め戻しをしている訳ですから自然な状態ではないのです。柱穴を掘ると場所によっては、柱がそのまま残っていたりします。(写真①②)

図は、写真①の柱穴から出土した樽と柱、写真②の柱穴から出土した柱の実測図というものです。現在、室内において記録した図面や出土遺物の整理作業を実施しています。実測図は、遺物を正確に記録するもので加工した跡などを良く観察し作成されます。色々な角度から記録し、写真では表すことの出来ない情報を提供することになります。(文責 石渡一人)

別海町郷土資料館だより No.80
 発行日 平成18年3月1日
 発行所 別海町郷土資料館
 別海町別海宮舞町30番地
 電話 0153-75-0802 (FAX 兼)
 e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 「冬の野鳥観察会」今年もたくさんのオジロワシ・オオワシが観察出来ました。いつ見ても優雅ですばらしい。誌面にも書きましたが、発掘調査の整理作業を現在室内にて実施中です。見学希望の方は、いつでもおこしください。なお、発掘報告書は平成18年度刊行予定です。(石渡一人)